

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	408A	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.040	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：408A**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

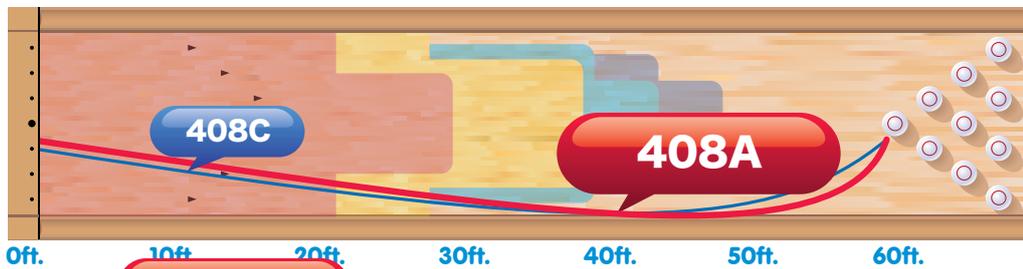
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：408C**

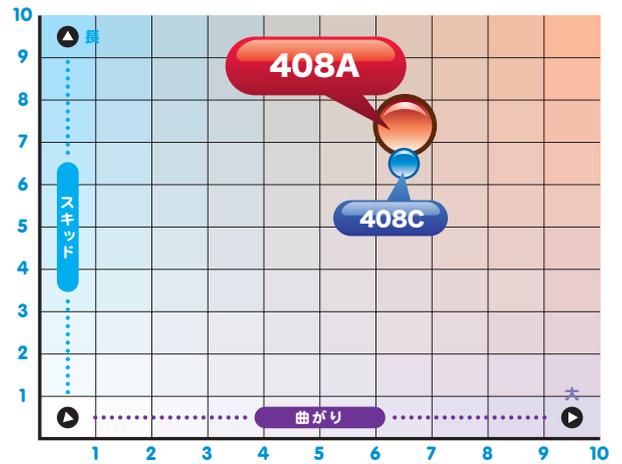
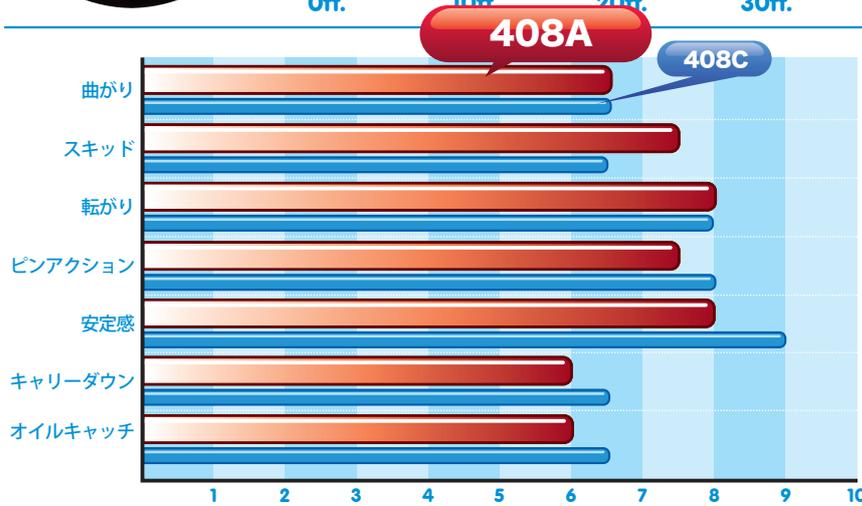
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

”A”(Angular)の性能分布で、これほどまでに先でのシャープさを前面に打ち出し、明確に角のでのリアクションのボールは今までなかったと思います。最も先まで走り、角がでて最も遅れて一気に向きを変えるレイトリアクション性能の408Aの発売です。テスト時に私が一番強く印象に残ったのが意外にもポケットヒット率の高さでした。こういう性能の場合、オイルに乗ると曲がらなかつたり急激に曲がったりと挙動を強く感じるのですが、”4”の強さ以上にスキッド中のオイルキャッチを感じ、ドライゾーンとやや伸びているエリアとの差が急激に感じない不思議な性能のボールです。もちろん今までのボールの中で最も先までスキッドする感じとバックエンドで一気に向きを変えるイメージは強いのですが、それほどオイルに弱くは感じないのに思った以上にスキッドする感じる部分と、これだけ急激に曲がる性格のボールでポケットヒットしやすく感じたこと自体が不思議という面白く、テスト時にも数球だけで発売を決定できた国際製品の中でもごく稀な出来上りの良さということが言えます。

408Cと比較投球しましたが、”A”と”C”の違いはもちろんのこと、408Cと同等のキャッチ感を保ちながらボール2個～3個分ぐらい遅れてから明確に切れ込む曲りを感じることができます。双方はスキッド能力こそ違えど、曲り幅は同じぐらいで、遅れてリアクションを起こしても408Cと同等の曲り幅を得られるということは、それだけバックエンドの動きが大きいということを理解して頂けるでしょう。これこそ”A”(Angular)の決定版と言っても過言ではない性能、是非多くの皆様に極上の出来栄を試して頂けたらと思います。

### 特記事項

**ナンバーシリーズ最大級の走りとバックエンドの鋭い切れ味を兼ね備えた408A。爽快に一気に向きを変える激しさはまさに”A”を名乗るに相応しい性能です。**